

# 身近な山で雪歩きを楽しむ

藤井 諭

昨年から足を悪くし痛みを感じるようになった。医者からは足に負担のかかるハードな登山はしばらく控えるよう言われた。そこで今シーズンは大好きな雪山登山を、身近な低山の山で楽しむことを考えた。ここでは松江市の周辺で、短時間で登れる易しい雪山登山を紹介する。雪山入門コースとして、雪山初心者の方には是非お勧めしたい。発刊した「出雲の山々とその周辺の山」のラジオ・インタビューで紹介したが、今はコロナ時代に最適なレジャーである少人数ハイキングを楽しみながら、健康に過ごして行きたいと思う。

## 雪の真山・白鹿山

普段は穏やかな山だが、雪景色で新たな風情となる。1月4日に年頭のハイキングを、雪景色の中で戦国の歴史ある山を楽しんだ。真山の登山道は雪に覆われて動物の足跡しかなく、サクサクと雪を踏みしめて歩くと気持ち良い。眼下はソフトビジネスパークから市街地まで白く覆われ、新年にふさわしくフレッシュな風景だった（上写真）。白鹿山は雪が少なかったが、小白鹿山からの白い市街地と宍道湖の眺めが素晴らしかった。



## 純白の忌部高原

1月20日は久しぶりに晴れた。松江市の中でも忌部高原は特に豪雪地だ。休暇村までの車道は除雪してあるが、遊歩道には全くトレールはない。まずワカンを着ける（中写真）。沢池入口まで一周して一人ラッセルを約2時間楽しんだ。コースの紹介は「出雲の山々・・・」40ページに詳しくある。

雪景色の松江市中心街、宍道湖や大山の展望を楽しんだ。純白のバーจินロードは神秘的だった。雪に埋もれたキャンプ場の景色も勇壮だった（下写真）。積雪は約50cm、歯ごたえのあるラッセルが楽しめた。降雪直後の晴天日を狙って行くと良い。

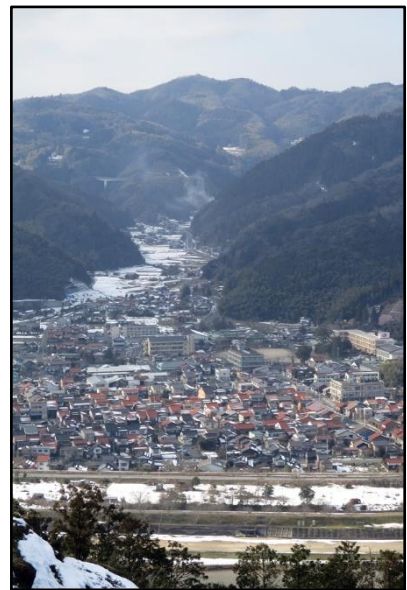


## 雪化粧の月山

1月21日午後は、東の間の晴れだった。降雪後に気温が上昇し雪が解け始める月山を、登山靴とストックで登った。上写真は雪景色の山中御殿と京羅木山である。七曲りは北面で雪が残って滑りやすく、スニーカーの観光客は苦労していた。



三ノ丸からの雪の眺望は素晴らしい。広瀬の町と京羅木山・勝山城跡を望み、眼下には御子守口と土塁群がある。そして毛利本陣だった星上山と、富田城から松江城への移転に使われた旧街道（現国道432）を望む（中写真）。飯梨川上流は、山中鹿之助が毛利に挑んだ布部、山佐方面である。普段見ないこれらの雪景色は、戦国時代の哀愁をも感じる。



## 雪深い瀬戸山城跡

1月25日は東の間の冬晴れで、飯南町まで出かけた。国道54号から赤名小学校に登ると除雪はここまでで、車を駐車し登山口に進むとトレールはない。地元の方は、雪に覆われた瀬戸山城跡に登らないようだ。いきなりラッセルとなりワカンを履いた。積雪は30cmだが、雪でたくさん木の枝が落ちて歩き辛い。普段の3倍かけてラッセルし山頂に至った。山頂からの大展望は素晴らしい（右写真）。



瀬戸山城跡は出雲の国の入口で、スムーズに宍道湖に至ることができる。宍道湖からは松江、広瀬へは水路で近い。毛利軍はこの地を出雲攻略の最重要地として攻めた。城主の赤穴氏は必死に守ったが落城し、毛利の尼子攻略の拠点となった歴史がある。

帰路は自分のトレール（下図）をなぞりわずか30分で下れた。山頂での大展望を楽しんでワカン歩行の練習ができる、雪山入門にはピッタリのコースだと思う。

